



合同会社宇野かばん工房
〒500-8029 岐阜県岐阜市東材木町3番地
Tel.058-263-5514 Fax.058-242-9848
E-mail info@unokaban.jp
http://www.unokaban.jp/

長く使ってもらえる 鞆作りを心を込めて 継承していきます



合同会社宇野かばん工房 代表 宇野幸晴さん

金華山を仰ぐ静かな住宅地。岐阜市東材木町にある「うのかばん」は、この地に工房を構えて今年で66年目を迎えました。

手作業ならではの「技」

創業当初から注文カバンの製作や修理を主な業務とし、請け負う特注品は「逸品」ばかり。
なかでも、創業時から現在まで代々技術が受け継がれ、作りつづけられている鞆が店内にはあります。
「これは中部電力の作業員の皆さんが腰に付け、電柱に登って作業するための工具入れです」
そう話すのは、三代目の宇野幸晴さん。

「うのかばん」でも、ゴールデンウィークあたりから問い合わせが相次ぐようになり、サンプル製作を年々早くせざるを得ない状況です。
幸晴さんは専門店ならではのこだわりをこう語ります。
「ランドセルには家族それぞれの想いが託され、大切な発育期の6年間をお子様の中で過ごします。だからこそ、手作りならではの背負いやささ、背負い心地を何よりも重視し、お子様の身体にやさしいつくりになるよう最大限にこだわっています」

さらに、卒業後にはそのランドセルを、ミニランドセルをはじめペンケースやキーホルダー等々に形を変え、家族の宝物に生まれ変わらせることにも取り組んでいます。
「最近では、父様からキーホルダーやキーケースなどの日々持ち歩けるようなものにリメイクしてほしいという声も多く、ひとつのランドセルから同じアイテムを2〜3つ程度お作りして、ご家族でお使いになるというお話も伺います」
幸晴さんは、「家族の絆」を深める一助になればとやがいを感じています。

初代の祖父の時代から注文を受けはじめ、父、そして3代目に至る現在も作りつづけている商品。いわば「うのかばん」の「ルーツ・原点」ともいえる鞆です。

昭和25年の創業当初は、企業からの注文カバンや修理が主な業務でしたが、昭和30年代半ば頃から全国的なランドセルの普及に伴い、ランドセルの製造販売を開始その後、日本の高度成長期とともに需要が増え、今ではランドセルは「うのかばん」の看板商品となっています。
幸晴さんが家業を継ごうと、岐阜に戻ることを決意したのは、平成23年。「東日本大震災」がきっかけでした。「一度きりの人生。後悔のないようにと考えたとき、心に浮かんだのは自分を育ててくれた父母が営む家業のことでした」

現在、父の背中を追い、鞆製作に取り組んでいます。
子どもたちが6年間安全に、安心して過ごせるように

一針、一針に想いを込めながら、これまでに3万個を超えるランドセルを手掛けてきた、二代目であり、父の昌さん。
時には、子どもたちの身体を守ってくれる役割にもなるランドセル。毎年、お客様からの声、その時代背景に合わせた改良を重ねてきました。

常に、今手掛けているランドセルが、職人としてできる「最高の技の結集。そこには、ゆるぎない自信、そして子どもたちの成長を見守りたいという優しさが溢れます。そんな父、昌さんの想いは、今、息子の幸晴さんへとしっかりと受け継がれています。

近年、ランドセル市場は「祖父母、父母、ご本人」でひとつのランドセルを選ぶ姿が多くみられ、ランドセル選別にまた「うのかばん」には、ご家族みんなで賑やかにランドセルを選ばれる季節が訪れます。
そんなご家族の、特にお父様のなかにはランドセルではなく店内のご自身が使われるような鞆をじっくりとご覧になっている方も多くいらっしゃいます。
幸晴さんはその姿に、男性の「手作りでいいものを持ちたい」というニーズを確かに強く感じています。
そして、ひとつの想いが生まれました。

将来的にはこうした男性が満足のいく、「男性のための本物の鞆」を作っていきたい。
それは、革本来の素材を生かした風格のある「鞆」。祖父が、父が手掛けてきたオンリーワンの鞆作りの技術を「自らの技」として、残し、伝えていけるしっかりとした技術に裏打ちされた、全てが「手作り」ならではの「逸品」です。

上質な革の香りが広がる「うのかばん」の店内には、世界にひとつだけ、あなたのために作られた鞆があるかもしれません。
その際立つ手仕事は、あなたの明日への糧に、通じることでしょう。

採択されました
平成26年度補正
小規模事業者持続化補助金

インターネット広告等の活用によるランドセルの販売促進事業

☆ 支援しました

「うのかばん」は、創業以来対面販売にて「品質の良さ」をじっくり伝えることに注力しており、顧客満足度の大変高いお店です。しかし近年、来店される多くの方が事前にホームページでお店の商品や場所を調べるなどして、内容を把握しているケースが多くなっており、今後インターネットでの購入も増えることを予想し、今回「わかりやすいホームページ」へのリニューアルを目指しました。

これからは、国内はもとより海外のお客様への情報発信も強化し、Made in GIFUの技を世界へアピールされるようなことにも支援していきたいです。



当所経営コーディネーター 林 義晃